

## 令和7年度 第2回 八尾市地域ケア連絡協議会 会議資料

### 資料1 令和7年度地域ケアケース会議報告

- ◇ 地域ケアケース会議合同定例会 . . . P. 1
- ◇ 地域ケアケース会議発言要旨 . . . P. 2 ~ 3
- ◇ 地域ケアケース会議随時会議 . . . P. 4 ~ 8

### 資料2 令和7年度高齢者虐待について（中間報告）

- ◇ 養護者による虐待集計 . . . P. 9 ~ 11

### 資料3 令和8年度地域ケアケース会議について

- ◇ 地域ケアケース会議の体制（案） . . . P. 12
- ◇ 地域ケア会議の方向性（案） . . . P. 13
- ◇ 地域ケア会議 年間予定表（案） . . . P. 14

### 資料4 令和7年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書（中間報告）

令和7年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書（中間報告）

チームオレンジ活動について（中間報告）

. . . P. 15 ~ 19

### 資料5 令和7年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書（中間報告）

. . . P. 20 ~ 21

令和8年3月

## 令和7年度 地域ケアケース会議合同定例会

## 第1回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時	令和7年5月22日(木) 14:00 ~ 16:00
場 所	八尾市文化会館プリズムホール 5階 レセプションホール
内 容	<p>(1) 令和6年度第2回 地域ケア連絡協議会の報告及び 令和7年度地域ケアケース会議の方向性について</p> <p>(2) 地域ケアケース会議の事務局紹介</p> <p>(3) 合同学習会          ①令和6年度高齢者あんしんセンターの取り組み報告          テーマ「重層的支援体制整備事業ー地域としてどう支えていくかーについて」          報告者:八尾中学校区高齢者あんしんセンター萱振苑          桂中学校区高齢者あんしんセンタースローライフ北          上之島中学校区高齢者あんしんセンタースローライフ八尾          テーマ「防災について」          報告者:高安中学校区高齢者あんしんセンター寿光園          南高安中学校区高齢者あんしんセンター信貴の里          東中学校区高齢者あんしんセンター中谷</p> <p>②八尾市認知症地域支援推進員活動報告          テーマ「新しい認知症観」          報告者:八尾市認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏</p> <p>(4)各圏域にて意見交換会</p>
対 象 者:	八尾市地域ケアケース会議委員
参加人数:	112名

# 令和7年度 地域ケアケース会議 発言要旨

ブロック	北部(第1圏域)	西部(第2圏域)	南部(第3圏域)
事務局	萱振苑・スローライフ北・スローライフ八尾	りゅうげ・ホーム太子堂・久宝寺愛の郷	楽寿・あおぞら・緑風園
テーマ (事例検証)	8050問題	8050問題について	「認知症の母と知的障がいのある次男、障がいの診断がつかなかった長男への関わり方」 「8050問題に気付いたケアマネジャーがどこまで支援をするのか」
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8050問題が表面化しない。</li> <li>80代の親が元気な間は50代の子どもの経済面・生活面を支える事が出来、問題意識が低く危機感がない。抱え込みや隠そうとする意識が働き相談しない。また相談ができない。</li> <li>・80代の高齢者の身体能力低下、判断能力低下で相談したい時に相談できない。</li> <li>・子どもは無職や低収入、就職氷河期世代で自立できない。</li> <li>・40歳代～50歳代の求人職種が狭く就労が困難。</li> <li>・発達障がいの診断まで至っておらずグレーゾーンの方が増加。誰かが関わらなければ発見や支援が出来ない。</li> <li>・50代に発達障がいや精神疾患等何らかの課題がある可能性があり相談能力が乏しい。</li> <li>・幼少期の支援機関との連携不足。</li> <li>・相談窓口の周知不足。</li> <li>・地域の発見機能が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8050問題が表面化しない要因として、理解不足、相談ハードルが高い。</li> <li>・80の介護などで表面化することがないこともある。</li> <li>・現在は、発達障害の周知がなされつつあるが、以前は、そのような定義や問題意識が乏しいため、課題として表面化するまで時間を要する。</li> <li>・親の義務感が強く、早期に疲れやストレスを抱えるケースがある。</li> <li>・生活困窮では、病気や家庭環境が強く影響しているケースが多い。</li> <li>・支援拒否ケースは関係性を構築していくことが大変である。</li> <li>・50世代がもう少し早い時期に介入できる機会が少ない。</li> <li>・孤独やアルコールの問題、金銭の浪費など複数の課題がある。福祉関係者の支援で落ち着いていても同じことが起きる。</li> <li>・給付金の申請時に申請漏れの多くが50世代だった。</li> <li>・9060問題も起きている。</li> <li>・サービスや仕組みに該当しないときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で繋がりのない方が転入した場合、情報がなく関わりもない。</li> <li>・地域の情報が共有できる場や相談のフローチャートがあればいい。</li> <li>・「50」について明らかに課題を抱えている場合が多い。また、本人が障がいの認識を持っていないと介入が困難となる。診断がついていないことが大きな問題となる。</li> <li>・8050問題は各委員によって、持っているイメージが違う。</li> <li>・ケアマネジャーは利用者本人に対してのケアマネジメントを実施することがメインとなっており、支援業務以外の仕事はケアマネジャーの業務には当たらない。ケアマネジャーが多くの法定業務以外の仕事をしているケースが増えている。</li> <li>・初期の段階でチームを組んで支援することができれば問題が長期化しない。</li> <li>・8050問題を発見しても相談先がわからない。当事者家族にしてもどこに相談をすればいいのかわからない。</li> <li>・公的な機関は平日しか相談できないことが多い。</li> </ul>
まとめ 施策提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・看護・介護だけでは解決の出来ないこともあり地域や行政の共同の必要性がある。</li> <li>・経済的困窮で生活保護申請しても解決には至らない場合もある。</li> <li>・障がい者支援の現場では8050の手前の5030が沢山いる。20～30代でひきこもりが始まっている。65歳になって問題が発覚するが、若い頃から発見し支援が必要。</li> <li>・生活にトラブルが発生した時に問題が発覚する事が多く、きっかけをつかんだ時に、どのように対応できるかが重要。</li> <li>・相談窓口の周知。</li> <li>・支援当事者や家族の寄り添いと居場所の確保。</li> <li>・障がいの機関相談センターと高齢者と障がいの一括相談窓口の設置。</li> <li>・重層的支援体制整備事業の充実。対象外の要支援者の繋ぎ先の拡充。</li> <li>・相談支援職員の確保。</li> <li>・支援体制の強化や多機関との連携・チームづくり。</li> <li>・相談支援職員の対応能力の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときには、ここと言う分野や機関に相談する。</li> <li>・複合的に課題があることを認識し、多機関と連携し支援する。</li> <li>・親なきあととは悲痛な思いがある。将来像の想像や相談啓発が有効である。</li> <li>・親なきあとについて、「想いをつなぐノート」の作成を推奨する。</li> <li>・認知症とアルコールの問題の区別は医師の判断になるが、接し方については専門性が必要。また、アルコールの問題について治療だけでなく、多機関で関わり複数の目で見守る。</li> <li>・依存症は「否認の病」と言われている。関係機関と連携した周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府のひきこもり支援コーディネーターを講師に招き、ひきこもり支援についての学習会を行った。引きこもり状態の長期化により8050問題が出現している。ひきこもり支援の対象者は生きづらさを抱えており、「自立」して生活をするのではなく、「自律」することをゴールとしている。8050問題への関わりは単独の支援機関だけが関わるのではなく、親・子それぞれの支援機関が関わりながら連携していく事が重要である。家族支援では、これまでの努力をねぎらいつつ、家族も支援の対象と考え支援関係を構築していく事が重要。</li> <li>・行政に相談があれば、各部署に重層的支援体制整備事業の担当者がおり、相談があった部署で対応ができないと判断すると、他課を含めての会議を行う体制ができています。</li> <li>・社会福祉協議会も断らない支援をしているが、長期支援は難しい。</li> <li>・「診断を受けておらず、生活能力のない50の方の支援を誰がすべきか」のアンケートを行ったところ、「ケアマネジャーが関わる必要がない」との回答が約5割・「わからない」との回答が5割だった。</li> <li>・支援者側が世代・職域等関係なく相談できる体制づくりが必要。</li> <li>・困り事の相談窓口(親世代・子ども世代用)の検討を行い、フローチャートを作成し、取りまとめを行う。</li> </ul>

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	8050問題	「8050」問題の実態と相談連携方法について
課題	<p>今年度の地域ケア会議を通じて、8050 問題に関する複数の課題が明らかとなった。第一に、課題を抱える 50 代の子が表面化しにくく、生活困窮や警察介入、入院など大きな問題が起きて初めて発見されるケースが多い点である。親が外部に状況を話したがないことや、地域とのつながりの希薄化により、早期発見が困難となっている。</p> <p>第二に、相談先や支援のつなぎ先が分かりにくいことが挙げられる。8050 問題は高齢者支援、障がい福祉、精神保健、就労支援など複数分野にまたがるため、支援が分断されやすく、初動対応や継続支援に課題がある。</p> <p>第三に、50 代の子への支援の難しさである。介護保険の対象外であり、障がいや疾病が明確でない場合は制度につながりにくく、長年のひきこもりや社会的孤立により関係構築にも時間を要する。</p> <p>第四に、世帯全体を見た支援体制の不足である。親と子それぞれの課題が重なり合う中、包括的・継続的な支援を行うための多機関連携や調整体制の強化が求められている。</p>	<p>親の年金で生活している子がいっても、ケアマネは親が他界すれば支援が終了して、娘とのつながりが途絶えてしまう。</p> <p>親が元気な間は、問題が潜在化されているので、支援対応が遅くなることが多い。</p> <p>地域社会とのつながりがなく、社会的に孤立していて外にヘルプを出せない状態に陥っている。</p> <p>家庭ごとに困りごとが違い、経済的な問題がない場合もあれば、複合的な問題もある。</p> <p>共依存関係になっているため、支援がなかなか進まない。</p> <p>当事者は「今はなんとかこなっている」生活が、何かをきっかけに一気に多重問題として生活を圧迫することを予測するなど意識が持てない SOS は、当事者自身が困っていると自覚しないと出せず、問題の多重化は避けられない。</p> <p>当事者が困る意識を持てず、相談先がわかりにくい。</p> <p>近所付き合いが希薄だと問題が表面化しにくい。</p> <p>8050 問題 50(若い方)の相談先、支援先がわからない。</p>
まとめ 施策提言	<p>(まとめ)8050 問題は一部の家庭に限られた課題ではなく、誰にでも起こり得る社会的課題であることが共有された。本問題は、高齢期になって突然生じるものではなく、幼少期や若年期からの生活歴、家族関係、社会的孤立が積み重なった結果として顕在化する場合が多い。そのため、支援においては問題が深刻化してから対応するのではなく、早期発見・早期支援の視点が重要である。</p> <p>また、8050 問題は高齢者本人のみならず、その子を含めた世帯全体への支援が必要であり、一つの機関で対応することには限界がある。信頼関係を基盤とし、解決を急がず段階的に関わるとともに、行政、医療、福祉、地域が連携した支援体制の構築が求められる。</p> <p>(施策提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップ相談窓口の設置と相談窓口の明確化</li> <li>・調整機能を担うコーディネーター配置・伴走支援を行う体制の強化</li> <li>・居場所づくりや就労支援の充実・地域で孤立を防ぐ仕組みづくり</li> <li>・中間的就労や就労準備支援事業の周知、活用</li> <li>・当事者、家族を通じた体験談を活用した講演会、啓発</li> <li>・SNS やスーパー等を活用した周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題が多くあるので、他機関が連携して支援に当たることが大切</li> <li>・高齢者の支援に入っても、ひきこもりの子への関りが大切(支援につなげていく)</li> <li>・インフォーマルな視点で早期発見できる仕組みが必要</li> <li>・支援者は第三者として客観的に評価し、総合的に判断して問題ととらえる。</li> <li>・若い方の相談先、支援先をもっと啓発し、伝えていく必要がある。</li> </ul>

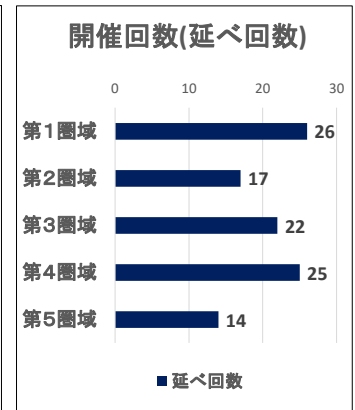
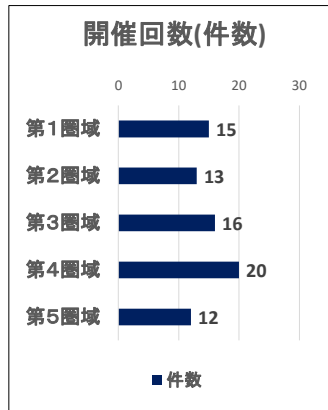
# 令和7年度地域ケアケース会議随時会議

R7年12月末現在

## 1. 随時会議の開催状況・内訳

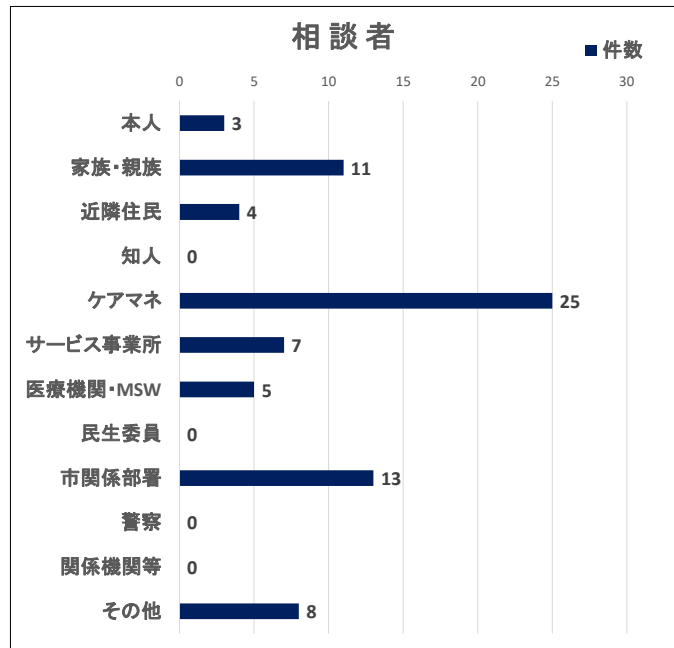
### 【開催回数】

	件数	延べ回数
第1圏域	15	26
第2圏域	13	17
第3圏域	16	22
第4圏域	20	25
第5圏域	12	14
合計	76	104



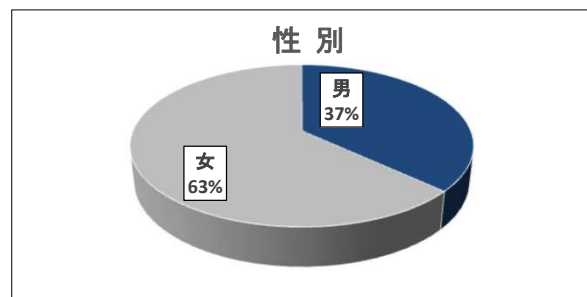
### 【相談者】

相談者	件数
本人	3
家族・親族	11
近隣住民	4
知人	0
ケアマネ	25
サービス事業所	7
医療機関・MSW	5
民生委員	0
市関係部署	13
警察	0
関係機関等	0
その他	8
計	76



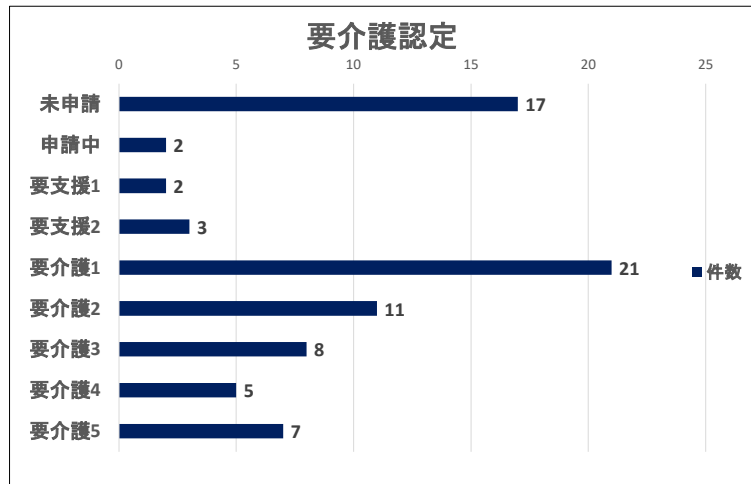
### 【性別】

性別	件数
男	28
女	48
計	76



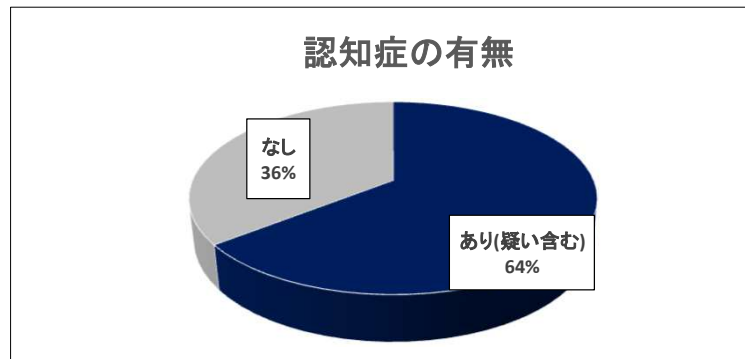
【要介護認定】

介護認定	件数
未申請	17
申請中	2
要支援1	2
要支援2	3
要介護1	21
要介護2	11
要介護3	8
要介護4	5
要介護5	7
計	76



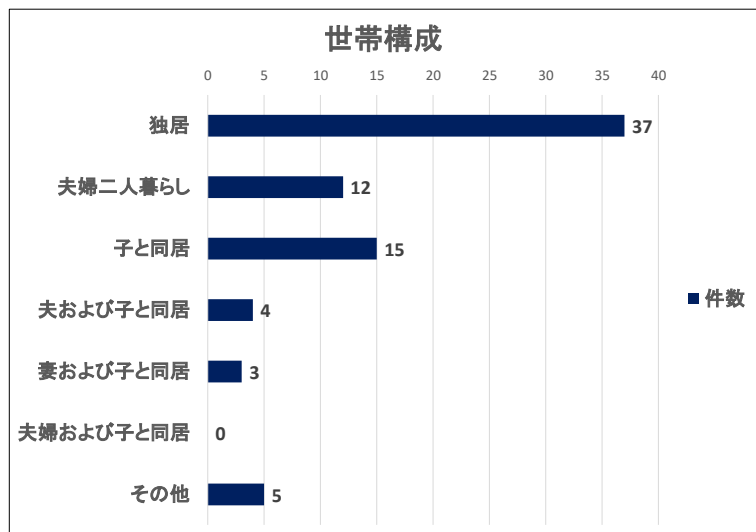
【認知症の有無】

認知症	件数
あり(疑い含む)	49
なし	27
計	76



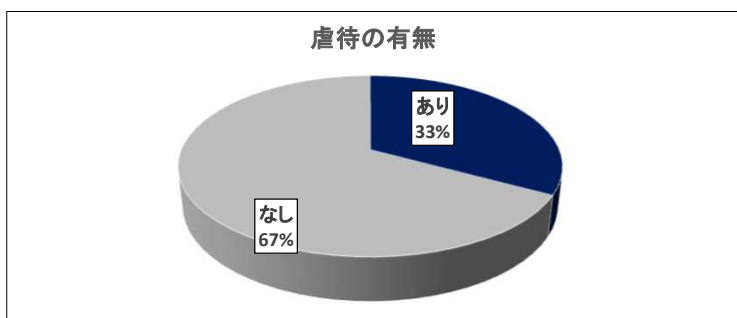
【世帯構成】

構成	件数
独居	37
夫婦二人暮らし	12
子と同居	15
夫および子と同居	4
妻および子と同居	3
夫婦および子と同居	0
その他	5
計	76



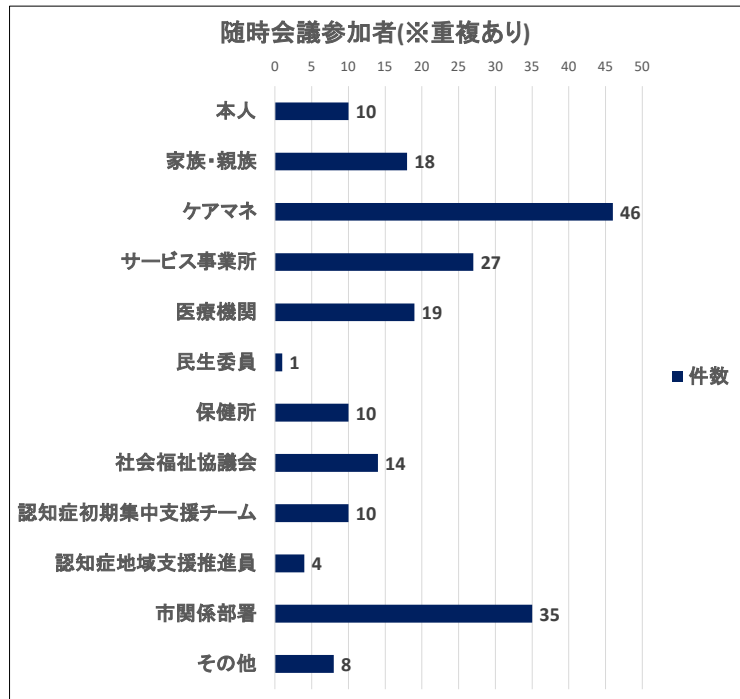
【虐待の有無】

虐待通報	件数
あり	25
なし	51
計	76



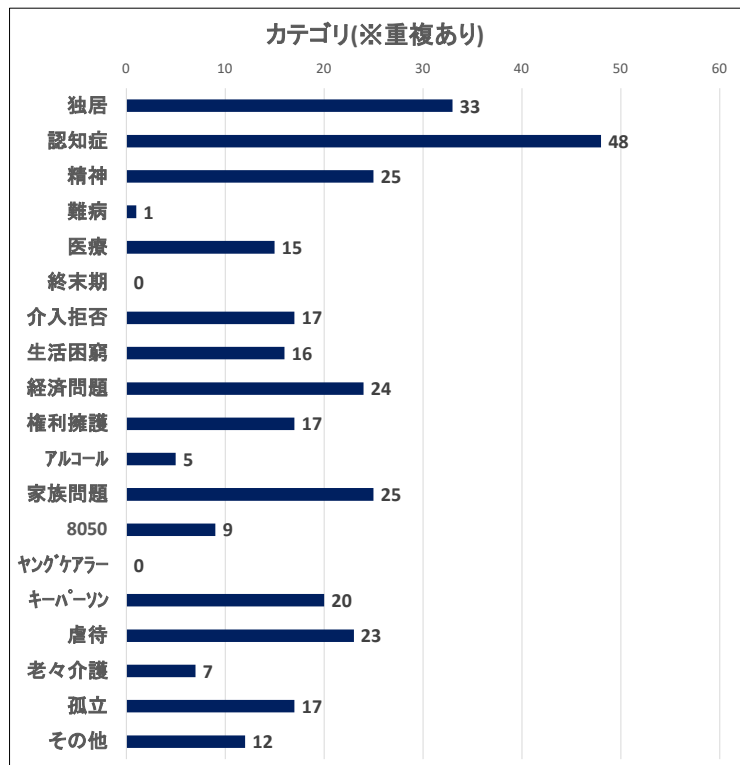
【随時会議参加者 ※重複あり】

参加者	件数
本人	10
家族・親族	18
ケアマネ	46
サービス事業所	27
医療機関	19
民生委員	1
保健所	10
社会福祉協議会	14
認知症初期集中支援チーム	10
認知症地域支援推進員	4
市関係部署	35
障がい福祉課	5
生活福祉課	19
高齢介護課	9
地域共生推進課	2
出張所等	0
その他	8
計(延べ件数)	202



【カテゴリ ※重複あり】

カテゴリ	件数
独居	33
認知症	48
精神	25
難病	1
医療	15
終末期	0
介入拒否	17
生活困窮	16
経済問題	24
権利擁護	17
アルコール	5
家族問題	25
8050	9
ヤングケアラー	0
キーパーソン	20
虐待	23
老々介護	7
孤立	17
その他	12
計(延べ件数)	314



## 2. 随時会議の経年推移

### 【件数】

	R5年度	R6年度	R7年度
随時会議	70	83	76
自立支援型	4	4	3
生活援助	1	3	0

### 【回数】

	R5年度	R6年度	R7年度
随時会議	101	120	104
自立支援型	9	4	4
生活援助	1	3	0

※令和7年度については令和7年12月末現在

### ○高齢者虐待ケース全体評価会議(レビュー会議)

高齢者虐待通報について、地域的な傾向の把握、共通課題の抽出及び虐待防止に向けた体制整備を目的として、各圏域及び専門職会議においてレビュー会議を開催した。会議では個別ケースの検討を通じ、支援の在り方や終結判断、関係機関との連携体制等について協議を行った。

回数	レビュー会議を通して抽出された課題等
集合開催 15回 (各圏域にて 3回開催)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症が背景にあるケースが多く、本人の訴えの真偽確認や虐待判断の難しさが指摘された。</li><li>・ 経済的困窮や年金依存を背景とした経済的虐待の増加がみられた。</li><li>・ 夫婦間トラブルや長年の家族関係に起因する事案が多く、パワーバランスの変化に伴う新たな虐待形態が確認された。</li><li>・ 若年性認知症や就労困難な子世代が関係するケースが増加し、高齢分野のみでは対応困難な事例が顕在化している。</li><li>・ 警察及び医療機関からの通報・紹介が増加し、早期発見の機会は拡大している。</li><li>・ ケアマネジャーのアセスメント力や対応のばらつきが課題であり、未然防止の視点強化が求められている。</li><li>・ 虐待判断及び終結基準について圏域間で差が生じており、市として統一的な方針整理が必要である。</li><li>・ 「8050 問題」に関しては、早期発見と多機関によるチーム支援体制の重要性が共有された。</li></ul>

### まとめ

R7 年度は、認知症を背景とした家族関係の複雑化や経済的困窮が重なった複合課題ケースの増加が明らかとなった。特に若年性認知症や就労困難な子世代が関係する事例では、障がい・就労・生活困窮分野との連携が不可欠である。

また、警察及び医療機関からの通報増加は啓発活動の成果と捉えられる一方、地域住民が早期に相談できる窓口周知を更に進める必要がある。今後は、ケアマネジャーを含む支援者の資質向上を図るとともに、虐待判断・終結基準の整理、市全体での支援方針の共有を進める。

高齢者あんしんセンターを中心に、保健・医療・福祉・障がい・就労部門等との連携を強化し、「8050 問題」や若年性認知症への対応、認知症理解の啓発の充実を図り、地域全体で高齢者を支える体制構築を推進していく。

# 令和7年度 高齢者虐待について

R7年12月末現在

## 1. 養護者による虐待通報件数・内訳(在宅)

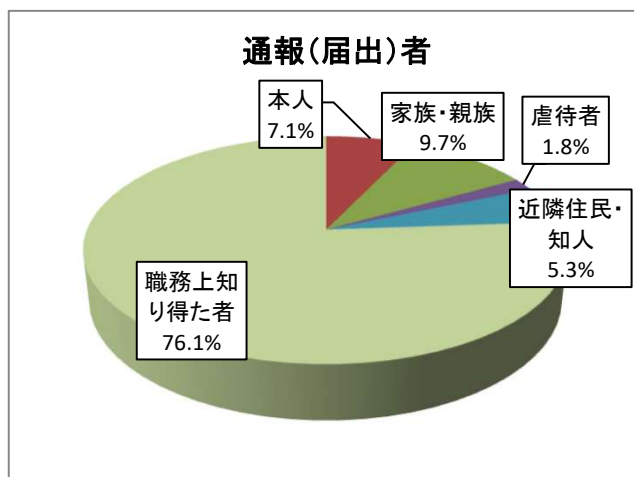
### ①通報(届出)件数・通報(届出)者

#### 【通報(届出)件数】

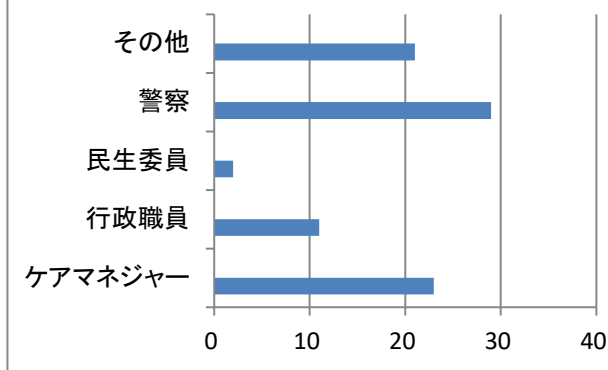
	件数
通報(届出)	107
事実確認	107
うち、虐待認定数	55

#### 【通報(届出)者】

相談者	件数	比率
本人	8	7.1%
家族・親族	11	9.7%
虐待者	2	1.8%
近隣住民・知人	6	5.3%
職務上知り得た者	86	76.1%
ケアマネジャー	23	20.4%
行政職員	11	9.7%
民生委員	2	1.8%
警察	29	25.7%
その他	21	18.6%
計(※重複あり)	113	100.0%



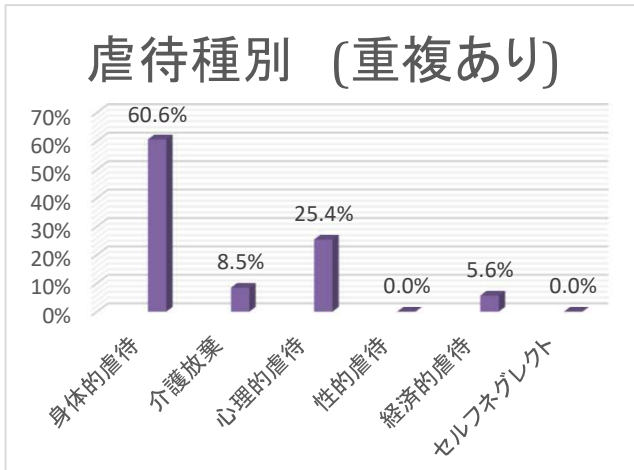
### 職務上知り得た者内訳



### ②虐待有の内訳

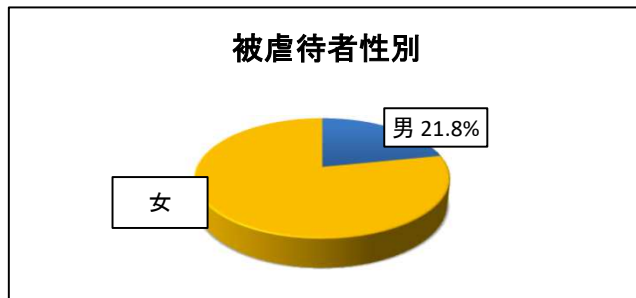
#### 【虐待種別】(※虐待有55件の内訳)

相談者	件数	比率
身体的虐待	43	60.6%
介護放棄	6	8.5%
心理的虐待	18	25.4%
性的虐待	0	0.0%
経済的虐待	4	5.6%
セルフネグレクト	0	0.0%
計(※重複あり)	71	100.0%



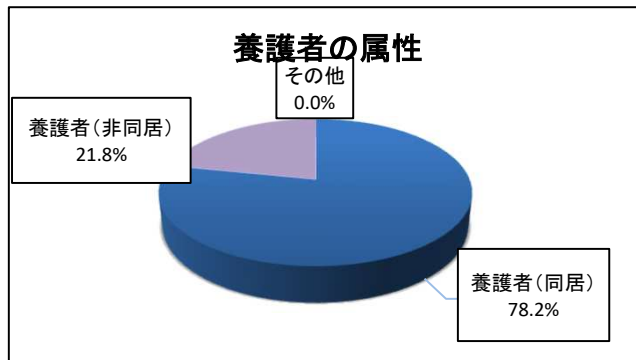
**【被虐待者性別】**

性別	件数	比率
男	12	21.8%
女	43	78.2%
計	55	100.0%



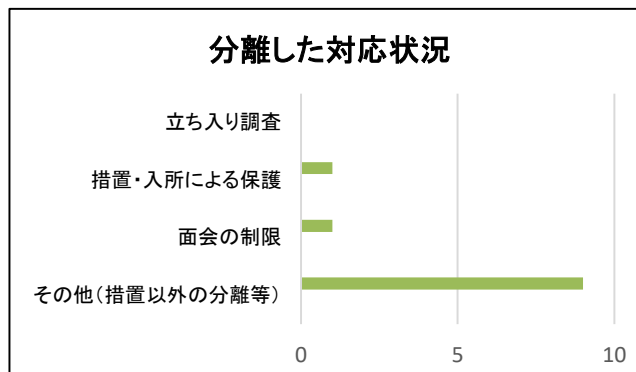
**【養護者の属性】**

属性	件数	比率
養護者(同居)	43	78.2%
養護者(非同居)	12	21.8%
その他	0	0.0%
計	55	100.0%



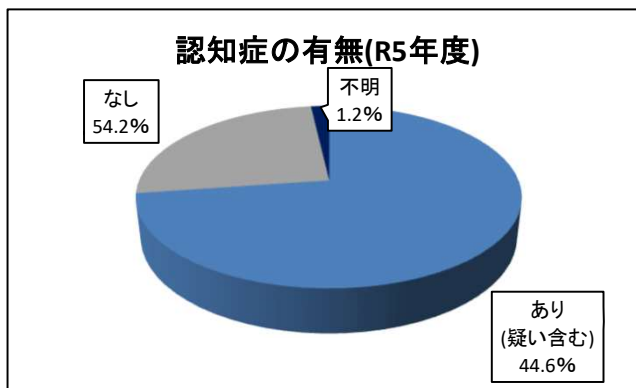
**【分離した対応状況】**

対応状況	件数
立ち入り調査	0
措置・入所による保護	1
面会の制限	1
その他(措置以外の分離等)	9



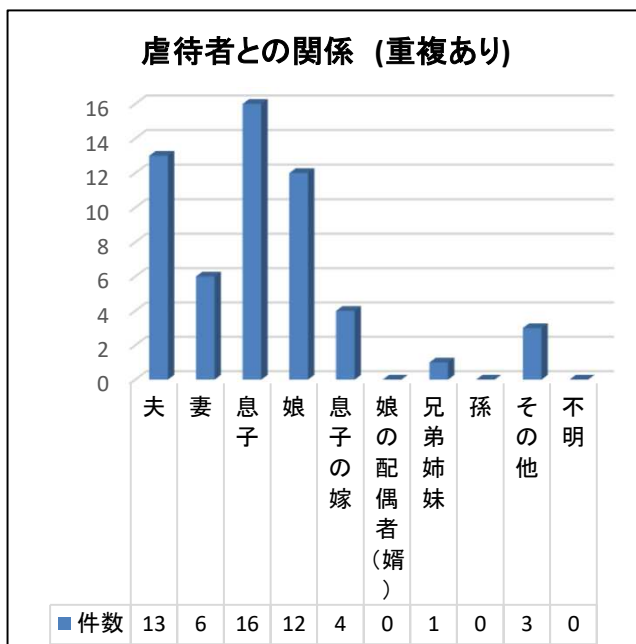
**【認知症の有無】**

認知症	件数			比率
	R5	R6	R7	
あり(疑い含む)	67	68	40	72.7%
なし	33	19	14	25.5%
不明	2	2	1	1.8%
計	102	89	55	100.0%



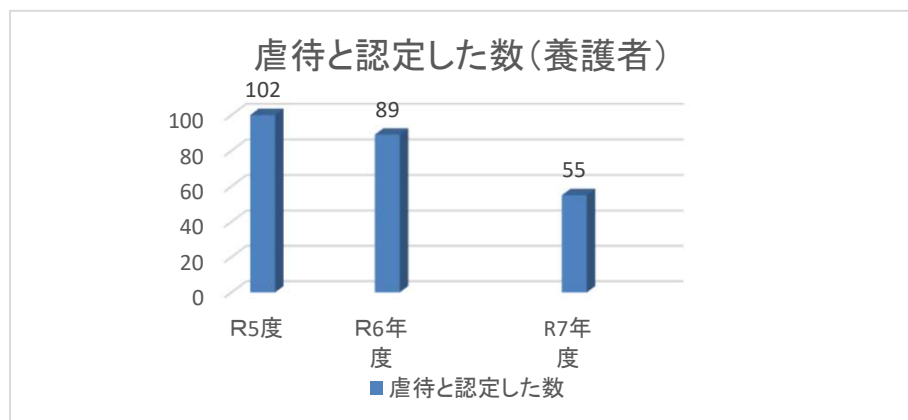
【虐待者との関係】(※虐待有55件の内訳)

虐待者との関係	件数	比率
夫	13	23.6%
妻	6	10.9%
息子	16	29.1%
娘	12	21.8%
息子の嫁	4	7.3%
娘の配偶者(婿)	0	0.0%
兄弟姉妹	1	1.8%
孫	0	0.0%
その他	3	5.5%
不明	0	0.0%
計(※重複あり)	55	100.0%



2. 虐待通報件数及び認定数の経年推移

種類		R5年度	R6年度	R7年度
養護者	通報(届出)件数	161	160	107
	虐待と認定した数	102	89	55
施設	通報(届出)件数	17	17	25
	虐待と認定した数	3	4	6



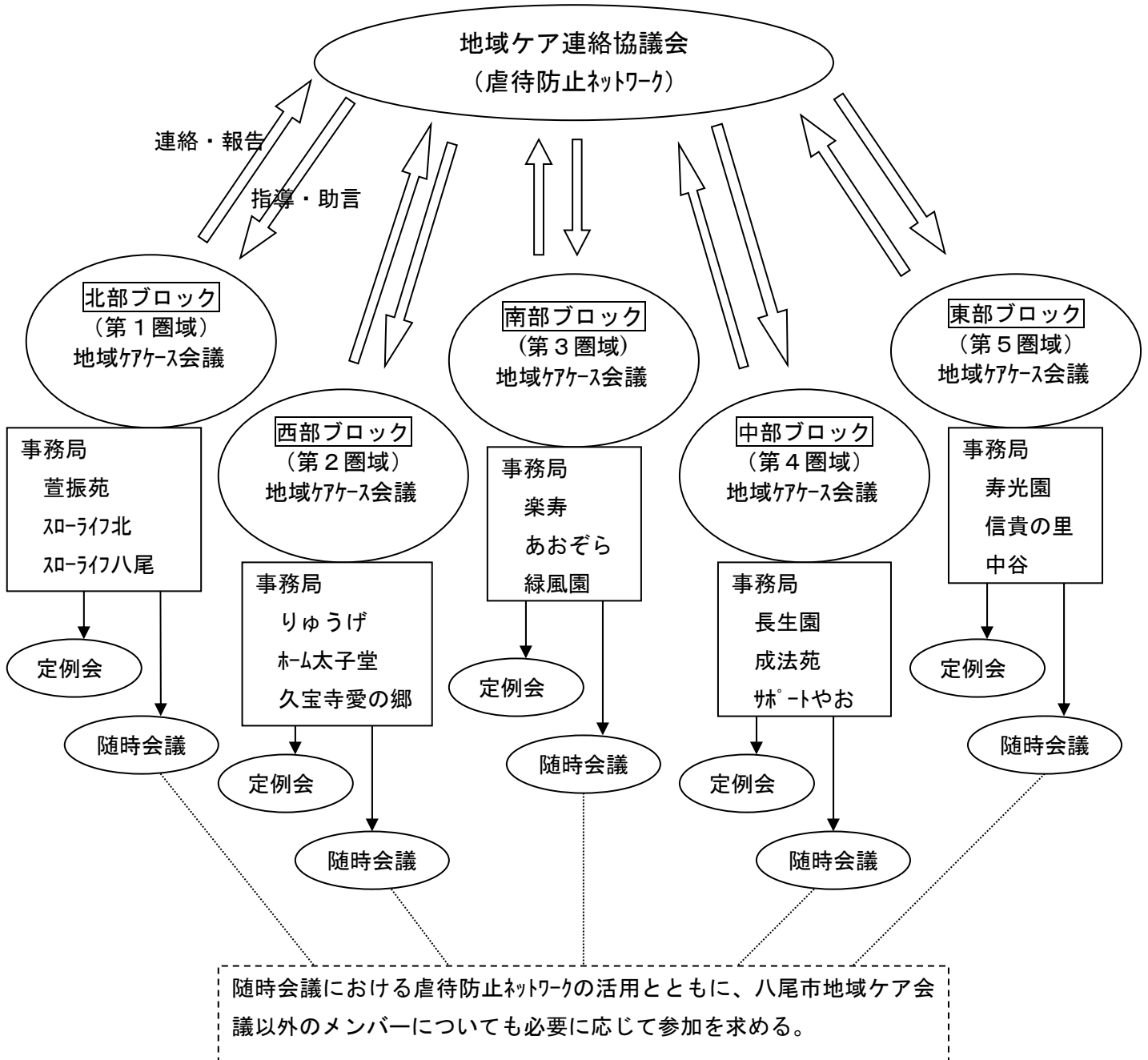
3. 成年後見制度市長申立件数

市長申立件数	R5年度	R6年度	R7年度
	6	11	11

令和8年度八尾市地域ケア会議体制（案）

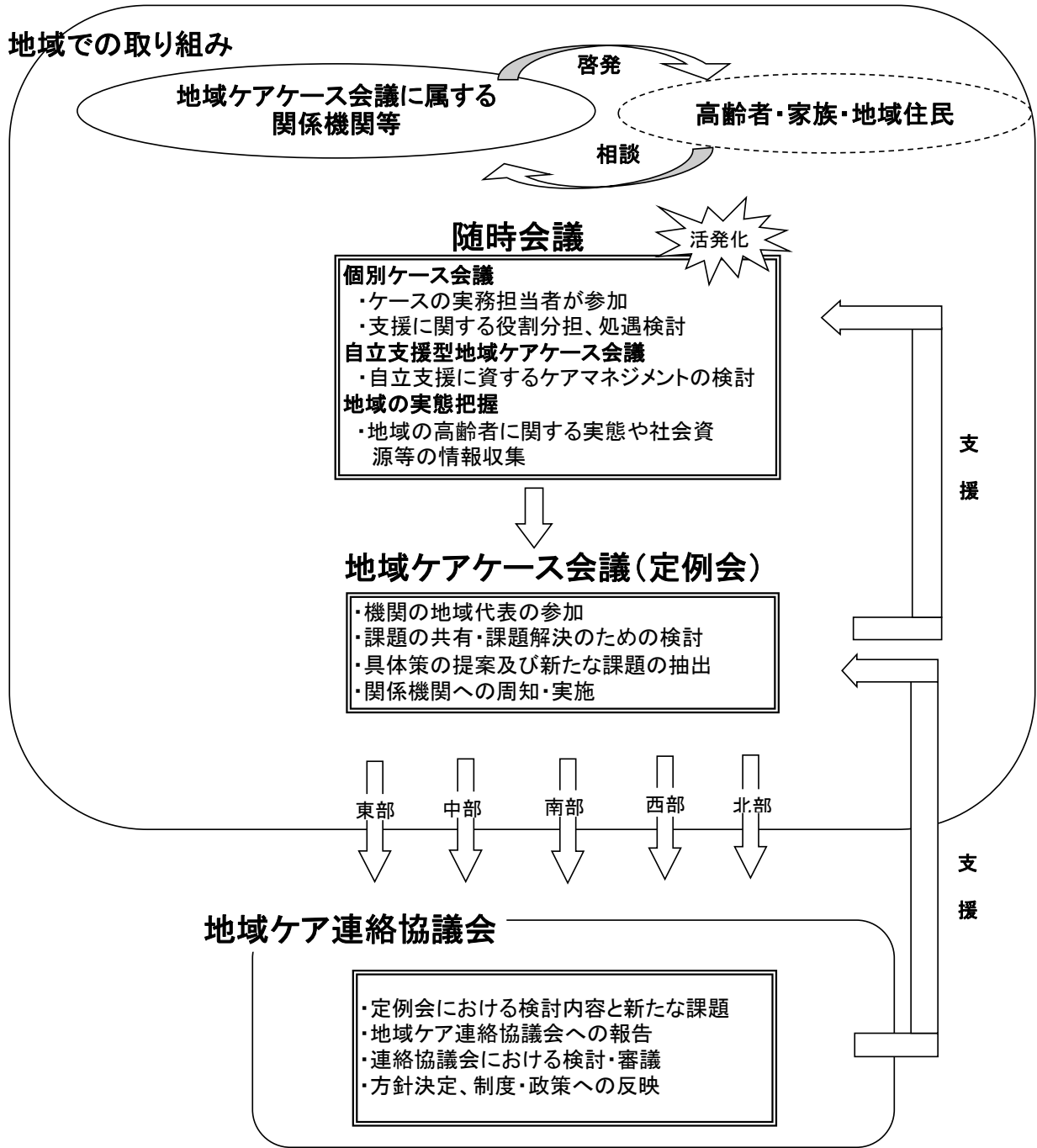
八尾市地域ケア会議

医師会・歯科医師会・薬剤師会・弁護士会・警察署・保健所・社会福祉協議会（地区福祉委員会）・民生委員児童委員協議会・居宅サービス事業者部会・居宅介護支援事業者部会・認知症疾患医療センター・消防署・地域包括支援センター連絡会・相談支援事業所連絡会・八尾市  
その他必要な機関

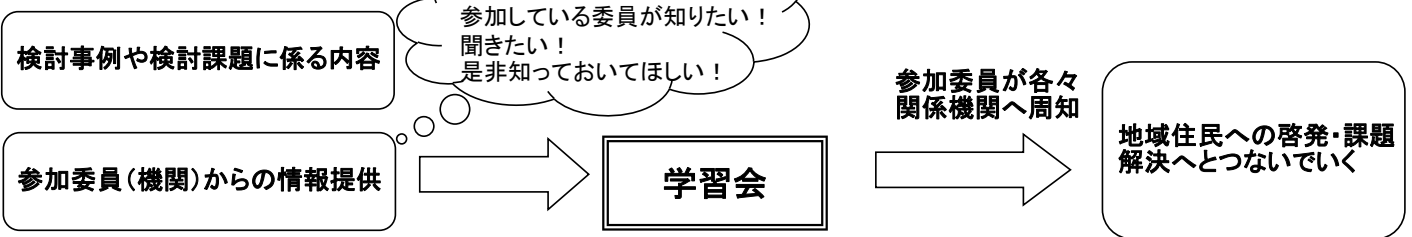


# 令和8年度 地域ケアケース会議の方向性(案)

## 1. 地域の課題解決



## 2. 学習会



令和8年度 地域ケア会議 年間予定表(案)

会議名	地域ケア 連絡協議会	地域ケアケース会議 定例会					地域ケアケース会議 随時会
日程	年2回	各ブロック 年6回 (隔月 第4木曜日)					随時
事務局	八尾市健康福祉部 高齢介護課	北部	西部	南部	中部	東部	各ブロック事務局
		(第1圏域)	(第2圏域)	(第3圏域)	(第4圏域)	(第5圏域)	
		萱振苑 スローライフ 北 スローライフ 八尾	りゅうげ ホーム太子堂 久宝寺愛の郷	楽寿 あおぞら 緑風園	長生園 成法苑 サポートやお	寿光園 信貴の里 中谷	
令和8年4月	第1回予定	令和8年5月合同定例会開催予定					随 時
令和8年5月							
令和8年6月		25				25	
令和8年7月			23	23	23		
令和8年8月		27				27	
令和8年9月			24	24	24		
令和8年10月		22				22	
令和8年11月			26	26	26		
令和8年12月		24				24	
令和9年1月			28	28	28		
令和9年2月	第2回予定	令和9年2・3月合同定例会開催予定					
令和9年3月							

令和7年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

令和7年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書

チームオレンジ活動について

(中間報告)

令和7年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書（医療法人 清心会）

【認知症地域支援推進員業務】

R7年12月末現在

業務実績	今後の予定
<p>1. 地域におけるネットワーク体制の支援 関係機関に対してPR 86回 （チームオレンジ活動、施設・事業所訪問等） 地域ケア会議等への出席 14カ所/2人 教室・講座などの打ち合わせ 25回</p> <p>2. 地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援や体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数 121件（実件数 36件） 内 若年性認知症 25件（実件数 4件） 【内訳】本人・家族27件、関係機関94件</li> <li>・認知症サポーター養成講座 24回</li> <li>・認知症高齢者声掛け体験 1回 （東中学校区民生児童委員会定例会にて実施）</li> <li>・包括家族介護・介護予防教室など 21回</li> <li>・オレンジパートナー養成研修 1クール （2時間×2日間）</li> <li>・シバ-リーダー-養成講座（認知症理解）1回</li> <li>・フレイル教室（認知症予防）1回</li> <li>・地域、団体へ認知症（予防）教室・講座 9回 （高砂地区認知症教室、刑部地区いきいきサロン、高安西地区高齢者ふれあいサロン、志紀ふれあいサロン、東山本ふれあい喫茶、シルバー人材センターきらめきフェスタ、八尾市介護者の会、傾聴ボランティア、笑いの会）</li> <li>・オレンジパートナーのつどい 2回</li> <li>・やおオレンジカフェ 23回</li> <li>・やおカレーの会（若年性認知症）1回</li> <li>・おれんじ教室“脳りちゃん” 223回/9カ所</li> <li>・オレンジパトロール 23回（5カ所）</li> <li>・オレンジミーティング 9回（1カ所）</li> <li>・おれんじルーム（認知症介護者交流会） 4回/1カ所</li> </ul> <p>*アルツハイマー月間イベント（9月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オレンジパトロール（清掃活動編）</li> <li>・認知症啓発講演会 朝日新聞社“認知症フレンドリー講座“、VR体験</li> <li>・やおオレンジカフェ“まちがってもいいWA！！”</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援関係者と定期的に認知症に関する地域課題の情報共有を行う機会をもつ。</li> <li>・地域ケア会議へ出席し、関係機関へ認知症地域支援活動状況を報告し、社会資源の情報発信と活用ができるようにしていく。</li> <li>・介護保険事業者、民間企業とチームオレンジとの連携を試行的に行っていく。</li> <li>・認知症ケアパスの配布を教室、講座、イベントなどを通じて市民に広く相談窓口としての“やおオレンジダイヤル”の周知を行う。</li> <li>・若年性認知症、認知症高齢者の支援体制を高年齢以外の分野とも構築できるように働き掛けていく。</li> <li>・おおさか希望大使の動画を活用しながら認知症本人の声を発信し、“新しい認知症感”を啓発していく。</li> <li>・キャラバンメイト、オレンジカフェの連絡会を開催し、情報交換や連携体制を構築しながら、認知症本人の社会参加支援を行える社会資源を考えていく。</li> <li>・オレンジカフェとしては、若年性認知症本人・家族の交流機会、また認知症本人がスタッフとして活動できる場所をつくっていく。</li> <li>・認知症初期、MCIなどの方への社会資源として、おれんじ教室（脳トレ教室）を開催。誰もが気軽に楽しみながら人と早期につながりをもてる居場所であることを広く啓発する。</li> <li>・オレンジパトロールの活動を地域活動の一環として施設で取組めるよう働きかける。</li> <li>・オレンジミーティングの活動を通じながら認知症本人交流会としても開催し、オレンジパートナー等とともに“本人のしたいこと、思い”などを聞く（認知症本人の“声”をきく）。</li> <li>・認知症の家族介護者支援の場として、おれんじルーム（認知症介護者交流会）を定期開催していく。</li> <li>・チームオレンジ活動へオレンジパートナーが多く参加できるような仕組みを考えていく。</li> <li>・認知症疾患医療センター、包括などと定期的な情報交換を行っていく。</li> <li>・認知症初期集中支援チーム員会議に出席して、個別ケースから見える地域課題の抽出を行</li> </ul>

<p>3. 認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関との連携 7回</li> <li>・関係機関との会議に参加 70回 (包括、地域の会議、認知症初期集中支援チーム員会議、地域密着型サービス運営推進会議など)</li> <li>・中河内地区認知症施策関連連絡会開催 1回</li> <li>・中河内地区認知症地域支援推進員連絡会開催 1回</li> <li>・認知症対応力向上研修実施（集合開催：プリズムホール）講師：松本一生医師 “家族支援”</li> </ul> <p>4. 事業の推進に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪・関西万博における認知症に関する情報発信事業企画委員会出席(万博会場) 1回</li> <li>・大阪府オレンジコーディネーター研修 1回</li> <li>・各種研修、勉強会、講座、認知症疾患医療センター受診同席(OJT)等へ参加 39回</li> <li>・大阪府認知症地域支援推進員連絡会参加 1回</li> <li>・認知症地域支援推進員（現任者）研修各 1回 / 2人</li> <li>・若年性認知症に関する研修 1回</li> <li>・大阪府若年性認知症支援ガイドブック作成ワーキンググループ参加 3回 (おおさか認知症希望大使活動)</li> <li>・大阪府認知症への理解増進セミナー 1回</li> <li>・大阪市北区認知症月間記念講演 “新しい認知症観” 1回</li> </ul>	<p>い、ケースに応じて本人の社会参加支援、家族支援に繋げていけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中河内地区認知症施策担当者支援体制や活動状況の情報共有、意見交換を行い広域での連携体制を構築していく。</li> <li>・“おおさか希望大使”の活動を通じて広域に認知症の啓発をおこなっていく。</li> <li>・認知症疾患医療センターの受診同席やカンファレンス等に同席し、本人、家族、支援者などの思い、鑑別診断の理解を深める。</li> <li>・大阪府若年性認知症支援ガイドブック作成のワーキンググループへ参加し冊子の作成を行う。</li> </ul>
--	---

令和7年度八尾市認知症初期集中支援業務実施報告書（医療法人 清心会）

【認知症初期集中支援推進事業】

R7年12月末現在

業務実績	今後の予定
<p>1. 支援チームに関する普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各種会議に参加                      地域包括支援センター管理者会議                      虐待レビュー会議                      地域ケアケース会議                      地域ケアケース会随時会議 等</li> <li>• 中河内認知症施策関連連絡会出席</li> </ul> <p>2. 認知症初期集中支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新規相談 28件</li> <li>• 新規介入件数 15件</li> <li>• 訪問件数（延べ） 129件</li> <li>• サポート医訪問件数 6件</li> <li>• 終了件数（前年度からの継続ケース含む） 11件</li> <li>• 連絡・調整件数 202件</li> <li>• チーム員会議 25件</li> <li>• モニタリング 6件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後も引き続き、地域の中で対応困難とされるケースについて、随時会議に積極的に参加し、支援についてともに検討する。</li> <li>• 既存のサービスに繋がらないケースについて、個別性に応じた活動が可能となるよう、認知症地域支援推進員と連携する。8050 問題等の多重課題を有するケースにおいては、本人への支援に加え、対象者の家族を含めた支援の必要性を踏まえ、他制度の活用や他機関との連携の可能性を模索する。</li> <li>• チーム員会議以外にも、ケース検討や情報共有の機会を活用し、チーム員間での支援方法や判断基準の共有を進めることで、支援の質の平準化を図っていく。</li> <li>• 初期集中支援が一定期間を超えて継続するケースについては、無理に支援を進めるのではなく、本人・家族の受け入れ状況や生活状況を踏まえ、支援を進める適切なタイミングを見極めながら対応する。 あわせて、長期化するケースの傾向を整理し、個別事例にとどまらず、制度運用上の課題として共有・検討していく。</li> </ul>

## チームオレンジ活動について

チームオレンジとは、認知症の本人やその家族を早期の段階から地域で支えるため、オレンジパートナー等が認知症の本人やその家族への支援を行う仕組みのことで、

### チームオレンジ活動報告（令和7年12月末時点 実績）

#### 【認知症月間（9月）の取り組み】

① オレンジパートナー養成研修			
内 容	認知症の理解、「チームオレンジ」の説明、認知症高齢者声掛け体験の実施		
日 時	令和7年9月4日（木）、9月11日（木）		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	14人
② オレンジパトロール			
内 容	清掃活動		
日 時	令和7年9月24日（水）	参加人数	30人
③ やおオレンジフェスタ2025【認知症VR体験会】			
内 容	認知症VR体験（講義あり） 八尾市での取り組み紹介		
日 時	令和7年9月26日（金）	参加人数	44人
④ やおオレンジフェスタ2025【まちがってもいい“WA（わ）！！”】			
内 容	認知症カフェイベント（ボランティアによる演奏、障がい者作業所や就労準備支援事業所による軽食等の販売）		
日 時	令和7年9月26日（金）		139人
⑤ 八尾図書館「認知症月間」展示 ※八尾図書館との共催			
内 容	展示コーナー（1階児童コーナー、2階大人向けコーナー）にて認知症に関する展示		
日 時	令和7年8月29日（金）～9月24日（水）		

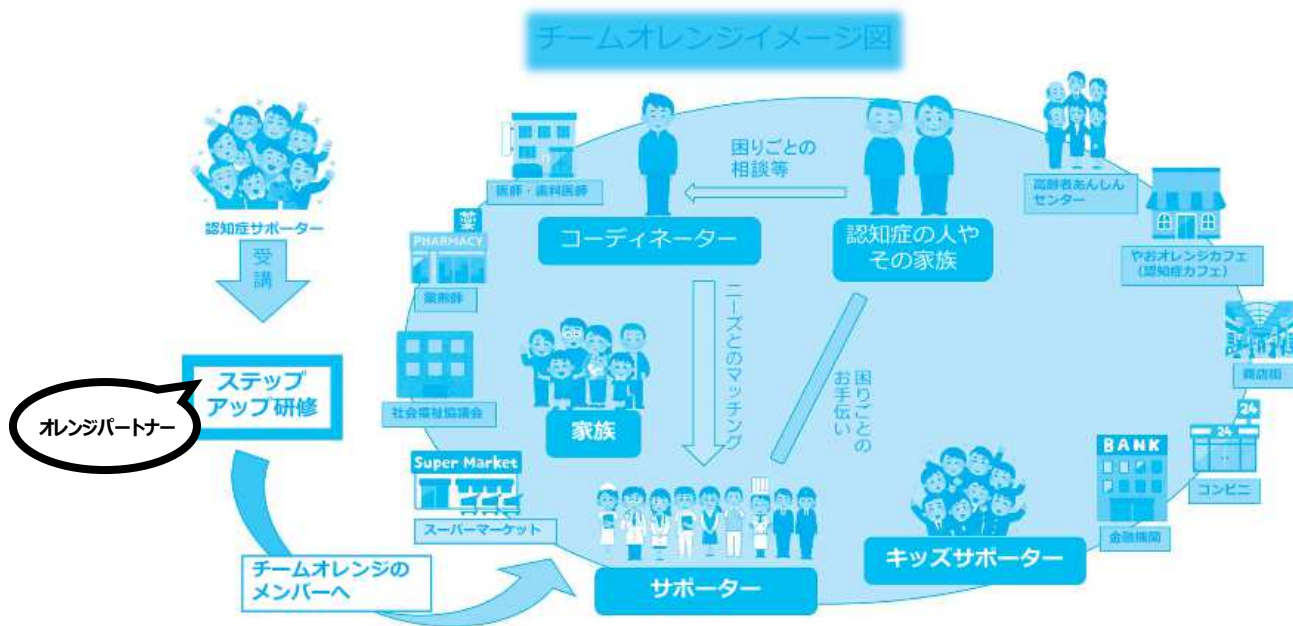
#### 【その他】

①オレンジパートナーのつどい			
内 容	認知症月間(9月)におけるイベントの説明、協力依頼、今後の「チームオレンジ」活動について話し合い		
日 時	① 令和7年6月27日（金） ② 令和7年10月24日（金）		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	① 29人 ② 21人
②中河内認知症地域支援推進員連絡会			
内 容	中河内圏域における認知症地域支援推進員間での情報共有		
日 時	令和7年7月11日（金）		
参加人数	8人（八尾市2人、東大阪市4人、柏原市2人）		
③中河内圏域 認知症をともに考える会			
内 容	中河内圏域における認知症支援に関わる支援者間での情報共有		
日 時	令和7年10月9日（木） Zoom 開催		

参加人数	26人（八尾市5人、東大阪市14人、柏原市7人）		
<b>④認知症対応力向上研修</b>			
内容	認知症本人主体の介護を行い、認知症の人の対応力を向上するための研修		
日時	令和7年11月19日（水）ハイブリッド開催		
講師	医療法人圓生会 松本診療所（ものわすれクリニック） 大阪市連携型認知症疾患医療センター院長 松本一生 医師	参加人数	147人

※全ての活動は、認知症地域支援推進員が中心となって実施しています。

チームオレンジイメージ図



<出典：厚生労働省作成資料を元に一部改編>

令和7年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書  
(中間報告)

令和7年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書(社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会)

1. 人材発掘・活動の担い手づくり、社会資源・地域資源の発掘

実績	評価と今後の課題
<p>(1)シルバーリーダー養成講座(3回×2クール) 高齢者の知識・教養の向上を図り、これから何かを始めたいと思っている方を対象に、全3日間の講座を2クール実施した。各回にグループワークを設け、受講生同士で交流が深まるよう工夫を行ったり、新たに企業やNPO法人と連携し、まちあるきや健康的な体づくりの視点で参加してもらった。</p> <p>(2)養成講座OB交流会(10/16) 参加者22名。過去にシルバーリーダー養成講座を修了した者を対象に活動状況の聞き取りや情報交換、地域の活動の場へのマッチング等を目的に開催した。前半は健康管理士より社会参加を通してフレイル予防していく大切さについて講義をいただいた。後半はグループワークを行い、今後何かやってみたいことについて意見を出し合った。ボランティアセンターの講座や地域活動の紹介を行い、新たな担い手につながるように企画した。</p>	<p>(1) 各回にグループワークを設けたことで、初日から参加者同士が打ち解けやすくなった。また、講座最終日は実際にボランティア活動の見学や講座で学んできたことの実践の機会を設けたりと地域活動に触れる機会の提供ができた。</p> <p>(2) 交流会では、「それぞれの活動している話を聞いて刺激になった」「地域のボランティア活動に一步踏み出したい」など意見があり、個人ボランティア登録や地区の福祉委員会活動につながった参加者も多くおられた。今後も継続して活動先の紹介やボランティアセンターの講座や地域活動の紹介を行い、新たな担い手につながるように企画し、定期的な情報交換の場をつくっていく。</p> <p>講座参加者が、受講後に何か活動に繋がっているのかを把握に努め、活動に参加できるよう情報提供等の支援を行う。</p>

2. 地域資源の開発

実績	評価と今後の課題
<p>高齢者ふれあいサロンの開設・運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規サロンの相談：2回</li> <li>・登録団体：8件</li> </ul>	<p>新規登録する団体の運営における相談の聞き取りを行ったり、高齢者ふれあいサロンのチラシを作成し、登録団体の周知を行った。</p>

3. 関係機関とのネットワークづくり、協働の場づくり

実績	評価と今後の課題
<p>(1)第1層協議体：10月7日 高齢介護課との打合せ：3回 協議体事前打合せ(座長)：1回</p> <p>(2)第2層協議体 昨年、8地区でワークショップを実施し、地区ごとに出た課題ややってみようの取り組みを進めている。 また、今年度は新たに各圏域で1地区ずつワークシ</p>	<p>(1) 協議体委員相互の地域課題や連携強化を目的に、高齢者の孤立化についてや男性が地域で活躍できる場所についてに関するグループワークを実施した。今後、委員より出た意見を参考に事業に活用していく。</p> <p>(2) 地域福祉の推進を担う「地区福祉委員会」「民生委員児童委員協議会」「施設連絡会」の3団体で役員交流会を開催し、顔の見える関係者づくりのきっかけを作</p>

<p>ヨップを実施した。 令和6年度：八尾第二地区、長池地区、高砂地区、西郡地区、亀井地区、大正北地区、高美地区、南高安地区 令和7年度：用和地区、竹渕地区、刑部地区、高安西地区、高安地区</p>	<p>った。各地区で振り返りを行い、地区内でも3団体の顔の見える関係づくりを行いながら、課題解決に向けたコーディネートを行う。</p>
--	---